

2025 9/9

No.2242

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



江戸期から昭和初期にかけての雨乞いを再現した「青龍祭」が8月9日、清川村で催された。わらや竹で作られた体長15mの2頭の竜が村内をパレードした後、「祈願札」とともに燃え上がった。



contents

視点点描	3
「国際都市」の真価 今こそ	
特集	4
豊かになれないのは 生産性の問題ではない ゲームチェンジの行方	
政治双眼鏡	8
新たな連立への模索 再現あるか？自民大分裂	
経済双眼鏡	9
トランプ大統領とノーベル賞	
よんななエコノミー	10
群発地震トカラ列島に住民戻る 「人のつながり」再生めざす	
口福の源	11
決戦食レシピ	
神奈川景気データファイル	12
かながわTODAY	14
8月の主な経済ニュース	

事務局だより

◇2025年9月定例講演会
9月24日(水)午後1時30分～3時
かながわ労働プラザ(石川町駅近く)
講師：神奈川新聞特別編集委員
有吉 敏氏

◇2025年10月定例講演会
10月9日(木)午後1時30分～3時
メルヴェーユ(桜木町駅近く)
講師：万延元年遣米使節子孫の
会理事 堀 早百合氏

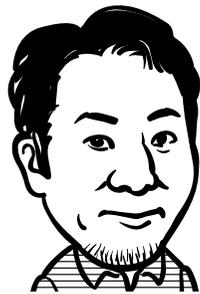
◇2025年11月定例講演会
11月19日(水)午後1時30分～3時
崎陽軒本店(横浜駅東口)
講師：ありあけ創業オーナー
藤木 久三氏

◇2025年12月定例講演会
(シンポジウム・会員交流会)
12月15日(月)
午前11時～午後1時30分
ロイヤルホールヨコハマ
(横浜市中区)
講師：共同通信社政治・経済・
外信部長など
演題：2026年の動向を読む

◇2026年1月定例講演会
1月15日(木)午後1時30分～午後3時
神奈川新聞社12階大会議室
(横浜市中区)
講師：文芸評論家 三宅 香帆氏
演題：なぜ働いていると本が読
めなくなるのか

【お知らせ】会報「政経かながわ」に会員企業の新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045 (26) 2121。

視点 点描



「国際都市」の真価今更

こそ北海道・洞爺湖に譲ったもの

の、TICADをはじめアジア太平洋経済協力会議（APEC）などの実績につなげてきた。

政府観光局の国際会議統計（22年）で「パシフィコ横浜」は20年

連続の首位。首都からのアクセスや観光に適したMICE（国際会議・展示場）で賓客をもてなす臨海部は、まさに世界から選ばれる「国際都市」といえるだろう。

今回のTICADも49カ国の首脳が集い、国内外から数万人が訪れた。会場周辺はにぎわい、地域経済への貢献も大きいとされる

が、「アフリカに最も近い都市」を誰もが体感できただろうか。

ホテルやレストランは「アフリカ月間」キャンペーンを展開したものの、市民の熱量が高まったとは言いがたい。小学校の児童が各国と交流する「1校1国」運動は形を変え、市営地下鉄の「1駅1国」

運動も途絶えたままだ。

「革新的な課題解決の共創」をうたった「横浜宣言」は、アフリカの経済成長支援のほか、民主主義と法の支配による平和と安定の必要性も強調した。

それなのに、交流促進ホームタウンに認定した自治体では「移民が増える」「治安が悪化する」といった誤情報が拡散し、抗議が殺到する事態に陥った。国内外で排外主義が広がる今こそ、多民族社会の価値を共有する好機とすべきではなかったか。

アフリカには「ウブントウ」の精神が受け継がれている。「あなたがいるから私もいる」という概念で、互いを尊重する価値観だ。

「日本人ファースト」より多様で包摂的な共生社会を。まさに今、国際都市の真価が問われている。（神奈川新聞社統合編集局次長・香川 直幹）

ラストカラーの国旗が青空に映える。鮮やかな民族衣装がまぶしい。真夏の太陽が照りつける会場は、「希望の大陸」の情熱が充満しているようだ。

「非常にホスピタリティーがあり、とても美しい都市だ」閉幕の会見で横浜の印象について質問した神奈川新聞記者に、共同議長を務めたアンゴラのロウレンソ大統領は賛辞を寄せた。2008年から4度目の横浜開催。開港150年を機に盛り上がった国際会議の誘致運動は、本日の主要国首脳会議（サミット）

命の主要国首脳会議（サミット）

香川 直幹